

地域顔

～民生委員として高齢者の生活について感じたこと～

須磨区菅の台 7 丁目民生委員 榎本辰夫

私が住んでいる地域は 450世帯あり、民生委員として見守りをしている方はそのうち約 85名で、高齢夫婦世帯や 1人暮らしの方々です。その方々の多くは、買い物や食事のことなど自分の身の回りのことはできる人ばかりですが、私が声をかけに行きますと皆様とても喜んでくださり、また私にとっても励みになっています。中には 1ヶ月ほど誰とも話しをしておらず、「テレビと話すだけだから、私の話す声がとても嬉しい」と言ってくれます。家族や親戚などとうまく連絡がついていないのでは、と感じています。

高齢の方が自分自身のことをできるだけ自分で行なっていくには、新聞・テレビや地域だよりを見ていろんな情報を知ることが大切です。名谷あんしんすこやかセンターの介護リフレッシュ教室に参加して、在宅で認知症や脳梗塞で身体が上手く機能できない方を介護されているご家族に、日ごろの介護上の悩みや体験を聞きにいらしています。その多くは男性の悩みです。高齢の男性の多くは、若いころに家事の手伝いをしてこなかったことで、家の中のことが出来ないということです。今は若い夫婦が買い物などを一緒にしている風景をよく見かけ、とても協力的だと思っています。世の中は後期高齢者のことばかり取りあげて、若い世代が高齢化社会をどう乗り越えいけるかが大きな課題となっています。しかし高齢者が若い世代から見習うこともあると思います。

私自身は現在69歳で、見守りの対象の方は72歳以上ですが、年齢の近い方も多くおられます。自分が若いときは年をとったらいろいろな計画を立てていきましたが、年齢を重ねた今、1日1日を大切に生きていこうと思っています。

地域づくり・健康づくり

安心して暮らし続けられる地域づくりに向けて

まちづくりスポット神戸マネージャー 向山良子

『まちづくりスポット神戸』(以下、まちスポ神戸)は、地域住民による地域課題解決のための活動をサポートする目的で、垂水区の商業施設「BRANCH神戸学園都市」に2013年12月にオープン。大和リース株式会社と認定NPO法人CS神戸が協働で運営しています。

1日平均50人が訪れ、買い物ついでに何気なく立ち寄る方から「自分も何かしたい!」と地域活動に高い関心を持つ方まで、行政枠や世代を超え、多様な層が来館します。

まちスポ神戸では、さまざまな講座を開催し、地域活動の相談、子育て支援事業、大学連携事業などに取り組んでいます。

大学連携事業として、出張ゼミや共同企画の講座、音楽サークルのみなさんによるカレッジ音楽祭の開催のほか、「学生コミュニティ活動応援助成」を設置し、地域活動を行なう学生サークルを支援しています。7月8日には、神戸市看護大学図書館ツアーを実施し参加者17名が、貴重な文献や実習施設を見学させていただき、「看護大がとても身近に感じられた。」との声が寄せられました。

講座では、ニーズに応じて、気軽に参加できる「まちそだてサロン」、活動の担い手育成を目指す「まちそだて講座(本科)」、専門家の指導による「まちそだて講座(専科)」の3つの枠組みで実施しています。講座修了生が次のステップに向かえるよう、相談に応じ、活動のあとおしをして、現在、登録団体は53団体となっています。

また、高齢化社会という課題に向け、「神戸市生活支援・介護サポーター養成研修」や「居場所サポーター養成講座」を開催し、健康寿命の延伸や地域の担い手づくりに特に力を注いでいます。「最後まで安心して暮らすことのできる地域づくり」に貢献できるよう、商業施設をプラットフォームとした「まちそだて」に取り組んでいます。



菅の台地区ふれあい給食
毎月第4火曜日に実施 筆者は右端



居場所サポーター養成講座
2016年2月に全3回実施し、
15の方が参加された